

# 大学院修了にあたって

## 忘れがたき新潟

予防歯科学講座 王 晶



私は、1995年10月に新潟を訪れ、予防歯科学講座において研究生活に入りました。実は、私の日本への訪問はこの時すでに2回目でした。最初は1991年、JICAの参加メンバーとして日本を訪問し、3ヶ月間、九州大学で研究生活を送っておりました。その時はグループ単位の研究生活で、順調に進んではいたのですが、当初の滞在スケジュールに従わざるを得なく、3ヶ月で帰国しなければなりません。既に東京のような大都市、京都、札幌などには訪れておりましたので、少しは日本について知っていました。しかし、そのころは、今のように、再び5年後に日本を訪れ、このように5年間にも渡る長期間、新潟に滞在することになるとは決して思いませんでした。

私が入道した最初の日のことを今でも明瞭に記憶しています。予防歯科の佐々木および鍛冶山両先生は東京まで私を出迎えてくれました。佐々木先生は不安だった私のために、医局からアパートまでの道順を間違わないようにと、2回も同行してくれました。その夜、医局の皆さんは歓迎パーティをしてくれました。自己紹介の後、皆さんと色々お話をしました。ここ新潟に来る前に少しは日本語は学んできましたが、挨拶にも苦労するぐらいのものでした。その後は、中国語と日本語は似ているところもあり、助かった部分もありましたが、ボディランゲージの助けも借りながら何とか会話をしておりました。

時間は、非常に速く過ぎます。それから5年の歳月が過ぎ、日本文化と同様に研究においても多くのことを学びました。新潟に来る前に、私が持

っていた新潟のイメージは、美しい女性、おいしい米、そしてお酒、さらには豪雪地帯などでした。私は中国北東部出身なので、新潟の寒さや雪には驚きませんでした。鳴り響きながら吹く強い風には驚きました。おそらく、ほとんどの人は、傘が風のために壊れた経験を持っているでしょう。雨が降り、そして日が差し、再び雨が降る、これが新潟特有の天候なのでしょう。

しかしながら、こんな天候とは逆に、医局の皆さんだけでなく、新潟の一般の方々からも大変親切にしてもらいました。もし、私のような外国人がこの新潟で道を尋ねれば、誰もがもみんな目的の場所まで連れいってくれるでしょう。

新潟での5年間、私は若い人のみならず年輩の方にも多くの友人ができました。私は、その御家族の方々と日本の新年を経験し、一緒に温泉にも行きました。その他にもすばらしい思い出があります。夏は、新潟で私にとって最も良い季節でした。海で泳いだり、浜辺に座り波の音を聞いていました。特に夏のフェスティバルも私が最も楽しみにしていたイベントの一つで、民謡流し、花火、日本海夕日コンサート、人々の微笑は、私を非常に幸福にしてくれました。私も皆と同じでありたいと思ったものです。

外国の学生として、言葉の問題は最初につかる大きい問題です。新潟に来て最初の頃は、医局の皆さんから学んだだけでなく、新潟インターナショナルフレンドシップセンターでも日本語を学びました。それらは、主に会話をとおして学んだ日本語でした。

予防歯科の専門医として、私は新潟県内の多くの地域に調査に出かけました。多くのすばらしい充填物や入れ歯を見て、日本の歯科医療技術の進歩や各個人のケアの素晴らしさを認識しました。

私は、この5年間、特に弥彦小学校という施設での調査研究に多く参加しました。予防歯科の佐

久間先生の指導による、う蝕プログラム（予防管理およびフッ化物洗口など）により、この小学校の子供たちは、他の小学校の児童達と比較するとう蝕がほとんどありません。

また、8020調査（長寿を探る調査）も、私が参加した大きなプロジェクトの一つです。特に1998年夏に行った最初の調査では、連日、40度近い気温と100%近い湿度の中で行われました。しかし、検査者もさることながら高齢の対象者も皆、最後まで頑張りました。その時、私は対象者の70、80歳の人々の元気な姿に驚きました。ほとんどの方は自力で調査会場まで来られ、劣悪な調査会場の環境であるにもかかわらず、ほとんどの人が全ての調査項目をこなされました。日本が世界に名だたる長寿国である理由が少しわかったような気がしました。

必ずしも良いことばかりの5年間ではありませんでした。私も、ホームシックになったり、研究面での心配や、さらにはアパートに火事が起こるといった経験もしました。今では、これらすべてが人の人生におけるただの出来事に過ぎないと思えます。

私の国に諺があります。「苦痛なし、利得なし、これが人生である」

最後に、日本で生計を立てるために、私に奨学金を提供してくれた日本政府に感謝いたします。そして、予防歯科教授である宮崎先生および医局員全ての方にも同様の感謝の意を捧げます。研究および生活において、関係方々の助けなしでは、順調にPhDを終えられなかったであろうと。

新潟は、私の第2の故郷となりました。私は、これらのことを忘れることはないでしょう。

## 太った理由

歯科矯正学講座 稲見佳大

僕は大学院に籍を置きながらも臨床を中心とした生活を送らせていただきましたが、その4年間でとても太ってしまいました（恥ずかしいので写真はgrowth前です）。僕の人生の中ではまさにgrowthのピークともいえるほどでした。そのため自分の体積がわからなくなったのか、思いもよ



らぬところで物や他人とぶつかることがあったり（ぶつけられた人はそれをデブアタックというらしい）、先輩には太って見苦しいということで、逆セクハラだ、なんて言われる有様です。

そもそも人はなぜ太るのでしょうか？友人にその質問をしてみたところ、「う～ん、運動しないから。」続けざまに、「たくさん食べるから。」と。そうなんです。当たり前なのですが、自分の太った理由を考えてみたところ確かにこの4年間、あまりにも動かなかったということもあるのですが、食べ過ぎ飲み過ぎだったようです。

その生活のパターンとしては、主に昼間は外来にでていたのですが、夕方からは夕食を食べて仕事をするか、先輩たちと、医局あるいは外に飲みに行くというのが日課となっていました。入局前、実はほとんどお酒が飲めなかったのも、矯正といえば宴会、花田教室といえば今日も飲むで～みたいなイメージでしたのでとても不安でしたが、いつの間にか慣れてしまい、しょっちゅうご馳走になっていました。そんな生活を続けていくうちに、お陰様で全くといって良いほどの下戸も、自分から飲むぐらいになっていました。矯正科の飲み会は楽しく、特に泊まりがけで遊びに行ったりするとみんな朝から飲んだくれ大変な大盛り上がりになります。また先輩方と飲むと楽しいばかりではなく、とても勉強になります。矯正治療というのは、もちろん理論があってそれに基づいておこなっていくわけですが、ある種職人的な部分もあり、自ら盗み取って学んでいかななくてはならないことも多々あるわけです。その時に先輩の先生方がどのような性格で、どのような考え方で、…ということを知らなかったら、その考えを十分に会得できないであろうと思います。また矯正のことに限らず、そういうお酒の席だからこそ、教えてもらえること、聞けることもたくさんあると思います。

まあそんな訳で、食べ過ぎ、飲み過ぎも勉強のうち、太ったのもしょうがないと理由をつけて自分には言い聞かせているわけですが、最近ちょっと体も重いし、見た目も迷惑みたいなので、せめ

て体を動かそうと思って何か定期的に運動でもしようと思ってもあります。とりあえず思いつかないので、せめて階段を使うようにし始めました（いばるなっちゅーの！）。大切なものを運んでるとき以外でエレベーターに乗っているのは挫折しているときですから「稲見さん痩せないよ！」と声を掛けて下さい。

お陰様で今はこんな僕になってしまいました。しかしその代償というわけではありませんが、“矯正”というものに出会い学ぶ事ができて本当に良かったと思っています（もちろん矯正科に太った人が多いわけでもないし、矯正科にはいると太るわけでもないの誤解のないようにお願いします）。矯正治療は非常に奥が深く、戦略性を持って先を読みながらも、一方では生体の微妙な変化、反応を感じながら繊細さを持って行わなくてはなりません。少しおこがましいかもしれませんが、尊敬する先生方の治療を拝見すると僕は、ある一面では美しいとさえ感じ、芸術という域に達しているものではないかと感じております。そのためその真髄を究めることは非常に困難で道のりは険しいと思っています（先輩方には、実は本当の難しさを感じていない、と言われてしまうかもしれませんが）。しかしそれ故に矯正治療は楽しいもの、いつまでも興味を持ち続けられるものであると感じられるのかもしれませんが。どうしても自分に甘いため、何かと妥協しがちになってしまうのですが、これからも他の先生方からは外来で、飲み会でいろいろ吸収させていただき、少しずつでも城の石垣を積むかの如く地道に積み重ねていって、必ずや究めていきたいと思っています。乾杯！

## ～I am what I am～

予防歯科学講座 小川 祐司



振り返れば96年10月、留学中のシドニーから一時帰国して大学院入学試験を受験に来たのが初めての新潟大学訪問であった。気温が20℃もあった秋晴れの日で、寒い新潟

のイメージを勘違いしてしまうほどであった。それ以来今日に至るまで、幾度となく新幹線で東京と新潟を行ったり来たりすることが常となった。そのむかし、湯沢や苗場に時間をかけて訪れていたころを思い出すと、こんなにも便利になり、身近なところになった感覚が時の移り変わりを肌で感じさせてくれる。

この4年間は大学院生としてだけでなく、歯科医としての自分を強く自覚するきっかけとなった。臨床における治療は無論のこと、健康管理から疫学調査、研究発表まで幅広い経験をすることができた。座学だけの頭デッカチな知識が、外に出て実際の経験を積むことで本当の意味での自分の礎となっていった。

そのなかでも、Myanmarにおける国家口腔保健プロジェクトの一環として、Pilot Oral Health SurveyのTechnical Supportを担当協力したことは、今まで自分が培ってきたものを集約する意味でいい勉強になった。患者に治療を施すことだけでなく、より多くの人々・Community・Nationに口腔保健の恩恵を授けることは決してたやすいことではないが、必要不可欠なことである。これを実現するために、我々歯科医をはじめ政府関係者から一般のボランティアにいたるまで一同に参画し、力を合わせることは大変意義深いものである。

大学を卒業して7年の月日が経過した。開業して医院を切り盛りしているもの、勤務医を転々としているもの、大学に残って学問を極めているもの、主婦になっているもの…みなそれぞれに人生を選択し歩んでいる。そんななかにも自分も新たな気持ちで仲間入りすることになった。

「小川の人生は変わっているなあ…」いつも同級生から言われ続けてきた。確かに少なからず周りの仲間とは違った卒後を送ってきた。母校を離れ、母国を離れ、新たな世界にひとり飛び込んだ。学問もさることながらふだんの生活にも無我夢中であった。しかし同時に、人と人とのふれあいの有り難さを身にしみて実感した。うれしいこと、悲しいこと、ともに分かち合った。これらのひとつひとつがかけがえのない糧となり、今日の自分を作り上げてくれた。いま、こうして大学院博士

課程修了という期を迎えるとき、喜びとともにいままで出会ってきたひとりひとりに感謝の気持ちを伝えたい。

これからまた新たなスタートである。期待に胸はずむよりも、大きな緊張感がよぎる。これからの自分のあるべき姿とは、一体何なのだろうか？

日進月歩の世、改変・再編の風は止む気配はない。歯科界においても聞こえてくる話は厳しい現実が多々である。初心を忘れることなく、ミレニアム号の舵をしっかりと見据えて、これからの人生を自分らしく過ごしていきたいと思う。

(私事で恐縮ですが、このたび結婚いたしました)

## 平成12年度 論文提出博士号取得者

学位授与番号 授与年月日	氏 名	主 論 文	所属(紹介)講座
新大博(歯) 乙第138号 平成12年6月23日	須 田 聡	A multiparametric analysis of occlusal and periodontal jaw reflex characteristics in adult skeletal mandibular protrusion before and after orthogn athic surgery (成人骨格性下顎前突症における外科的矯正術前後の咬合および歯根膜顎反射の複合的解析)	歯科保存学第2
新大博(歯) 乙第33号 平成12年10月24日	鈴 木 雄 司	ヒト副甲状腺ホルモン(1-34)の効率的生産方法の開発 1. High-level production of recombinant human parathyroid hormone 1-34 [遺伝子組換え型ヒト副甲状腺ホルモン(1-34)の効率的生産] 2. Effect of amino acid substitution at the P3 and P4 subsites of fusion proteins on Kex2 protease activity. (P3およびP4位アミノ酸置換のKex2 protease活性に及ぼす影響)	口腔生化学
新大博(歯) 乙第139号 平成12年10月24日	中 村 康 洋	Temporal changes in the distribution and number of macrophage-lineage cells in the periodontal membrane of the rat molar in response to experimental tooth movement (実験的歯の移動によるラット臼歯歯根膜内のマクロファージ 関連細胞の分布と数の経時的変化について)	歯科矯正学
新大博(歯) 乙第140号 平成12年10月24日	加 納 隆	日本人下顎骨の歯牙の喪失による顎舌骨筋線および下顎管の位置について	口腔解剖学第1
新大博(歯) 乙第141号 平成13年3月26日	庭 野 和 明	抗菌剤添加充填用ガラスアオノマーセメントに関する研究—圧縮強度, 崩壊率, フッ素溶出性, 走査型共焦点レーザー顕微鏡による観察および抗菌性—	歯科保存学第1

## 平成12年度 大学院歯学研究科博士課程修了者

学位授与番号 授与年月日	氏 名 (専攻科目)	主 論 文	進 路
新大院博(歯) 第286号 平成13年3月26日	佐々木 朝 代 (口腔解剖学第1)	Localization of Alkaline Phosphatase and Osteopontin during Matrix-Mineralization in the Developing Cartilage of Coccygeal Vertebrae. (マウス尾椎の軟骨内一次骨化におけるアルカリ性ホスファターゼとオステオポンチンの局在)	日本学術振興会 特別研究員
新大院博(歯) 第287号 平成13年3月26日	田 澤 興 平 (口腔解剖学第1)	Osteocytic Osteolysis Observed in Rats to which a Parathyroid Hormone Was Continuously Administered (骨細胞性骨溶解の形態学的検討)	田澤歯科医院 (新津市) ※社会人大学院 生
新大院博(歯) 第288号 平成13年3月26日	阿 部 真由美 (口腔病理学)	Mutational events of p53 gene in mucoepidermoid carcinoma and Warthin tumor of the salivary gland (唾液腺粘表皮癌およびワルチン腫瘍における p53遺伝子変異)	
新大院博(歯) 第289号 平成13年3月26日	HOSSAIN MD. ZAHID (口腔細菌学)	Peptides (casitone) support sufficient growth of dental plaque and periodontal pocket bacteria under anaerobic conditions [ペプチド(カジトン)は嫌気的条件下で歯垢, 歯周ポケット内細菌の良好な生育を支持する]	※留学生
新大院博(歯) 第290号 平成13年3月26日	小 川 祐 司 (予防歯科学)	Risk factors for periodontal disease progression among elderly people (高齢者における歯周疾患進行のリスクファクターの研究)	予防歯科研究生
新大院博(歯) 第291号 平成13年3月26日	高 野 尚 子 (予防歯科学)	Factors associated with root caries incidence in an elderly population. (高齢者の根面う蝕の発生とその要因についての研究)	予防歯科医員
新大院博(歯) 第292号 平成13年3月26日	廣 富 敏 伸 (予防歯科学)	Longitudinal study on periodontal conditions in healthy elderly people in Japan (健常高齢者の歯周組織健康状態およびその経年変化に関する研究)	予防歯科医員
新大院博(歯) 第293号 平成13年3月26日	山 賀 孝 之 (予防歯科学)	Relationship between oral conditions including occlusal features and function and physical fitness in the elderly population (高齢者の咬合機能・形態と体力との関係に関する疫学的研究)	予防歯科医員
新大院博(歯) 第294号 平成13年3月26日	王 晶 (予防歯科学)	Investigation of mineral changes in subsurface enamel lesions by using the Electrical Caries Monitor [ECM (Electrical Caries Monitor)によるエナメル質表層下病変におけるミネラルの量的変動の評価]	中国医科大学附 属口腔医院 ※留学生
新大院博(歯) 第295号 平成13年3月26日	小 柳 明 (歯科保存学第1)	臨床的条件下における各種歯科用コンポジットレジンからの Bisphenol-A の溶出に関する研究	歯科保存学第1 医員
新大院博(歯) 第296号 平成13年3月26日	福 田 敬 (歯科保存学第1)	Aerotolerance of Peptostreptococcus anaerobius biofilms with a live/dead differentiation method suitable for anaerobes (嫌気性菌生死判定実験方法の検討と Peptostreptococcus anaerobius バイオフィルムの酸素耐性)	
新大院博(歯) 第297号 平成13年3月26日	細 矢 明 宏 (歯科保存学第1)	ラット臼歯の皮下移植後に形成される歯髓腔内硬組織に関する免疫組織化学的研究	歯科保存学第1 研究生
新大院博(歯) 第298号 平成13年3月26日	渡 邊 正 勝 (歯科保存学第1)	フッ素イオンによる歯質耐酸性の向上に及ぼすカルシウムイオンの影響に関する研究	※社会人大学院 生

学位授与番号 授与年月日	氏名 (専攻科目)	主 論 文	進 路
新大院博(歯) 第299号 平成13年3月26日	CRUZ EDWARD VENZON (歯科保存学第1)	Efficient penetration of propylene glycol as a vehicle for intracanal medicaments (根管貼薬剤の溶媒としてのプロピレングリコールの浸透性)	※留学生
新大院博(歯) 第300号 平成13年3月26日	大 澤 豊 (歯科保存学第2)	Clonal accumulation of T cells bearing V $\beta$ T-cell receptor in chronic inflammatory periodontal disease (慢性炎症性歯周疾患における V $\beta$ T 細胞レセプター発現 T 細胞の集積)	歯科保存学第2 医員
新大院博(歯) 第301号 平成13年3月26日	齊 藤 宜 則 (歯科保存学第2)	マウス歯根膜細胞株の樹立とその性質に関する研究	歯科保存学第2 助手
新大院博(歯) 第302号 平成13年3月26日	多部田 康 一 (歯科保存学第2)	Elevated humoral immune response to heat shock protein 60 (hsp60) family in Periodontitis patients (歯周炎患者における hsp60に対する体液性免疫応答の亢進)	歯科保存学第2 医員
新大院博(歯) 第303号 平成13年3月26日	小 池 朋 江 (口腔外科学第1)	緊張性振動反射(TVR)を用いたラット閉口筋興奮性の検討	口腔外科学第1 研究生
新大院博(歯) 第304号 平成13年3月26日	島 村 拓 也 (口腔外科学第1)	Histochemical Examination on the Expansion Mechanism of Bone-Metastasized Breast Carcinoma (乳癌骨転移巣の拡大メカニズムにおける形態学的検索)	口腔外科学第1 研究生
新大院博(歯) 第305号 平成13年3月26日	新 美 奏 恵 (口腔外科学第1)	Vascular invasion in squamous cell carcinomas of human oral mucosa (ヒト口腔扁平上皮癌の脈管侵襲)	口腔外科学第1 研究生
新大院博(歯) 第306号 平成13年3月26日	安 島 久 雄 (口腔外科学第2)	Expression of Glial Fibrillary Acid Protein (GFAP) in Peripheral Tissues [末梢組織における glial fibrillary acid protein (GFAP)の発現について]	口腔外科学第2 研究生
新大院博(歯) 第307号 平成13年3月26日	羽 尾 奈津子 (口腔外科学第2)	Perlecan, basement membrane type heparan sulfate proteoglycan in the new bone formation: Its enhanced expression in the bone remodeling site of jaw cyst walls and in the process of mineralization of osteoblastic MC3T3-E1 cells (骨形成過程における基底膜型ヘパラン硫酸プロテオグリカン・パールカンの発現: 顎骨嚢胞壁骨改造部および骨芽細胞系 MC3T3-E1の石灰化過程における増強)	羽尾歯科医院 (上越市)
新大院博(歯) 第308号 平成13年3月26日	岡 安 一 郎 (歯科補綴学第1)	New animal model to study mastication in oral motor disorders (マウス咀嚼時における下顎運動と咀嚼筋活動)	風間歯科医院 (新潟市)
新大院博(歯) 第309号 平成13年3月26日	関 本 智 信 (歯科補綴学第1)	ガイド傾斜角度の変化が犬歯歯周脈波に及ぼす影響	歯科補綴学第1 医員
新大院博(歯) 第310号 平成13年3月26日	湊 修 (歯科補綴学第1)	鉤間線は浮上り時における絶対的な回転軸ではない—下顎片側遊離端義歯における検証—	歯科補綴学第1 医員
新大院博(歯) 第311号 平成13年3月26日	田 村 宏 (歯科補綴学第2)	Different Distributions of Immunocompetent Cells in the Dentogingival Junction during Root Formation in Rat Molars (歯根形成に伴うラット臼歯歯牙歯肉境における免疫担当細胞の分布について)	田村歯科クリニック (長岡市) ※社会人大学院生

学位授与番号 授与年月日	氏名 (専攻科目)	主 論 文	進 路
新大院博(歯) 第312号 平成13年3月26日	BALTAG IOANA (歯科補綴学第2)	Internal Porosity of Cast Titanium Removable Partial Dentures (チタン鑄造床の内部欠陥について) 1. Influence of Sprue Direction on Porosity in Circumferential Clasps of a Clinical Framework Design (第1編 臨床的形態の部分床フレームにおける二腕鉤の内部欠陥に及ぼすスプルー取付け方向の影響) 2. Influence of Sprue Direction and Diameter on Porosity in Simplified Circumferential Clasps (第2編 規格化した二腕鉤の内部欠陥に及ぼすスプルー直径と取付け方向の影響)	※留学生
新大院博(歯) 第313号 平成13年3月26日	饗場 広和 (歯科矯正学)	Effects of the inferior alveolar nerve stimulation on tongue muscle activity during mastication in freely behaving rabbits(自由行動下のウサギにおける下歯槽神経刺激が咀嚼時の舌筋活動に与える影響)	歯科矯正学研究生
新大院博(歯) 第314号 平成13年3月26日	稲見 佳大 (歯科矯正学)	上下顎移動術による中顔面軟組織の三次元表面形状変化の検討	歯科矯正学研究生
新大院博(歯) 第315号 平成13年3月26日	鳥養 葉子 (歯科矯正学)	下顎前突症例における下顎骨と舌骨の偏位について(The positional relationship between mandible and hyoid bone in patients with mandibular protrusion.)	歯科矯正学研究生
新大院博(歯) 第316号 平成13年3月26日	中川 麻里 (歯科矯正学)	Vascular endothelial growth factor (VEGF) directly enhances osteoclastic bone resorption and survival of mature osteoclasts [血管内皮増殖因子(VEGF)は直接的に成熟破骨細胞による骨吸収活性を促進し、また破骨細胞自身の生存を高める]	歯科矯正学研究生
新大院博(歯) 第317号 平成13年3月26日	廣島 邦泰 (歯科矯正学)	Temporal and spatial distribution of Fos protein in the parabrachial nucleus neurons during experimental tooth movement of the rat molar (ラット臼歯の実験的移動に伴う parabrachial 核ニューロンにおける Fos 蛋白の経時的・空間的発現について)	歯科矯正学研究生
新大院博(歯) 第318号 平成13年3月26日	SULTANA MST. HABIBA (歯科矯正学)	Changes in occlusal force and occlusal contact area after active orthodontic treatment: a pilot study using pressure-sensitive sheets (動的治療後の咬合力と咬合接触面積の変化:感圧シートを用いた予備的研究)	※留学生
新大院博(歯) 第319号 平成13年3月26日	神戸 正人 (小児歯科学)	Cry analysis during the dental treatment in early childhood (歯科治療における小児の泣き声の分析)	小児歯科学研究生
新大院博(歯) 第320号 平成13年3月26日	下村 淳子 (小児歯科学)	Isolation of Tensile Stress-responsive Genes in Cranial Sutures of Mouse Calvariae (張力刺激によりマウス頭頂骨縫合部に誘導される遺伝子群の解析)	小児歯科学医員
新大院博(歯) 第321号 平成13年3月26日	高木 正道 (小児歯科学)	Interactions between swallowing center, chewing center and supramedullary region in the induction of swallowing reflex (嚥下誘発からみた嚥下中枢、咀嚼中枢、上位中枢間の相互作用について)	小児歯科学医員

学位授与番号 授与年月日	氏 名 (専攻科目)	主 論 文	進 路
新大院博(歯) 第322号 平成13年3月26日	山 崎 由美子 (歯科麻酔学)	Temporal and spatial distribution of Fos protein in the lumbar spinal dorsal horn neurons in the rat with chronic constriction injury to the sciatic nerve (ラット坐骨神経CCI刺激による脊髄後角における Fos タンパクの経時的及び空間的分布の検討)	歯科麻酔学医員
新大院博(歯) 第323号 平成13年3月26日	BEGUM MONIJA (歯科麻酔学)	The methodological evaluation and effect of anesthetic agents in subanesthetic doses on exteroceptive suppression of Temporalis and Masseter muscles in healthy volunteers. [Exteroceptive Suppression (ES)の規格化と低用量静脈麻酔薬がESに及ぼす影響]	※留学生
新大院博(歯) 第324号 平成13年3月26日	ABU-BAKR NEAMAT HASSAN (歯科保存学第1)	PROPERTIES AND BEHAVIOUR OF POLY-ACID MODIFIED COMPOSITE RESIN (COMPOMER) (光硬化型修復材料コンポマーに関する総合的研究) 1. Effect of alcoholic & low PH soft drinks on Fluoride release from Compomer. (コンポマーのフッ素徐放性に対するアルコールおよび低pH清涼飲料水の影響) 2. Changes in the mechanical properties and surface texture of Compomer. (各種浸漬液中におけるコンポマーの表面性状および機械的性質の変化) 3. Color stability of Composer after immersion in various media. (各種浸漬液中におけるコンポマーの色調安定性) 4. Evaluation of the surface roughness of Compomer by Laser Scanning Microscope. (共焦点レーザー顕微鏡を用いたコンポマーの表面粗さの検討)	※留学生

## 平成12年度 歯科研修医修了者

氏 名	所 属	氏 名	所 属
重 谷 佳 見	第 一 保 存 科	福 西 雅 史	第 二 口 腔 外 科
高 野 雅 子	第 一 保 存 科	山 田 裕 士	第 二 口 腔 外 科
廣 瀬 祥 子	第 一 保 存 科	清 川 由 紀	第 一 補 綴 科
清 水 国 彦	第 二 保 存 科	小 坂 扶 貴 子	第 二 補 綴 科
西 方 淳	第 二 保 存 科	土 田 光 代	第 二 補 綴 科
布 川 寧 子	第 二 保 存 科	矢 野 良 彦	小 児 歯 科
五十嵐 大	第 一 口 腔 外 科	加 藤 直 子	加 齢 歯 科
加 藤 幸 生	第 一 口 腔 外 科	渡 邊 一 也	加 齢 歯 科
青 山 玲 子	第 二 口 腔 外 科		